

ラオス・香川県・JICAが 農業の課題解決に向けて連携



香川のファーマーズ協同組合でオクラの梱包を行う外国人技能実習生。

高齢化や産地間競争の激化によって日本の農業を取り巻く環境が厳しさを増すなかで、JICAは10月25日に、ラオス農業森林省、香川県ファーマーズ協同組合と「持続的農業開発にかかわるシェンクワン・香川県・JICA連携プログラム」を開始した。今後3年間にわたってラオス・シェンクワン県の農業振興と日本における外国人材受け入れの促進を図る。

ファーマーズ協同組合はこの8月にシェンクワン県に農業生産法人を設立。同組合が現地法人を拠点に苗木の生産・販売や農家への栽培指導などを行う一方で、JICAはその取り組みを補完して、行政の能力強化や農家の組織化、種苗の提供を行う。これにより、シェンクワン県の農産物の生産量を国内市場や近隣国へ出荷できる規模にまで引き上げ、生計向上を目指していく。

香川県では外国人技能実習生の受け入れ環境改善などを目指して、県内の民間企業やNPOなども事業に参画し、オール香川による取り組みが予定されている。

ニュース深掘り！ ODA事業と外国人技能実習生の協働

現在JICAでは、外国人材の往来を通じた地方活性化と人材育成が融合した支援のモデルづくりを、特に農業分野で行っています。今回のプログラムを途上国の農村と日本の地域の双方がともに発展・共存する先行事例とし、他の途上国でもその知見を生かした取り組みを展開していきます。

外国人技能実習制度は途上国の経済発展を担う、人づくりに貢献することを目的とした制度ですが、現実には実習生が国内の人手不足を補う労働力として扱われている、習得した技能が帰国後に生かされていないといった課題が指摘されてきました。ファーマーズ協同組合は従来からこうした課題の解決に取り組んでおり、実習生が母国に帰った後の活躍の場を設けるため現地に農業生産法人を設立したり、実習中は適切な指導で技能を伝えるなど、地域を担う人材として実習生を受け入れながら、途上国への技術移転を行ってきました。今回のプログラムではこの取り組みにODAを連携させ、シェンクワン県の農業生産の発展を加速させていきます。香川県の多様な関係者の力を借りながら、マーケティングの強化、農家の組織化、種苗物のラオス輸出に関わる検疫や通関の側面支援など、多方面の活動を行う予定です。

農村開発部
農業・農村開発
第一グループ

篠崎祐介さん
しのざき ゆうすけ

大学院で農学修士号を取得後2006年に入構。スリランカ事務所、財務部を経て、19年8月より現職。「日本の人手不足は深刻であり、外国人材の受け入れ拡大・活用が待ったなしの状況で、JICAができる協力を考えていきます」。



JICA HEADLINE NEWS

11月14日 | ▶パラグアイ政府により国家功労賞を受章

日本の40年以上にわたる国際協力の貢献に対し、同国政府より叙勲された。

11月8日 | ▶JICAと損保ジャパン日本興亜が連携へ

損保会社に蓄積された安全情報の日本企業への提供などにより、企業の海外展開支援の強化や日本国内の地域活性化を促進。

11月5日 | ▶プノンペン初の公共下水道施設の整備へ

カンボジア向け無償資金贈与契約を締結。地域住民の生活環境改善に貢献。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>